

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和6年3月30日

公表: 令和6年4月1日

事業所名: ろばのこ療育園そら

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○		安全に支援ができる職員の人数を配置している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		写真やシールなどを使い自分の持ち物を置く場所をわかりやすくしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の清掃を行い清潔に保っている。活動内容によって活動場所を変えている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎月クラス会議を行なっている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		改善すべき点を会議で話し合っている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		全職員に研修案内をしている。月1回虐待防止研修を行なっている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		個人懇談会を実施し、保護者様と話し合いながら支援計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントシートを作成している。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインに基づき支援をしている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		全職員が支援計画の内容を理解して支援を行なっている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動プログラムの内容を職員で相談して行なっている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎日の取り組む内容をカレンダーにしている。	子どものための活動を常に考えていく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		子どもの状況に応じて支援を行なっている。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		前日までに活動の進め方を話し合い準備を行なっている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		反省を話し合い次回の支援に繋げている。	その日に出勤ではなかった職員にも情報を共有する。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		業務日報を記入して活動の振り返り、反省を行なっている。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行い、支援の見直しを行なっている。		
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		相談支援事業所等と連携して支援を行なっている。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			

関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			主治医、医療機関の把握はできている。連絡体制も整えていく。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて行なっている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		定期的に会議に出席している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		子連れ出勤が認められており、職員の子どもと関わる機会がある。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	○		毎月1回、南区子育てネットの会議に出席している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		デイリーノートにその日の様子を記入したり、ルクミーを利用して活動している写真を送っている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○		保護者様から相談を受けた際、しっかりと対応させていただいている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		入園時に説明を行なっている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援計画をご確認いただき同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者様から相談を受けた際、しっかりと対応させていただいている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		年3回ろばママの会、年1回ろばパパの会を行なっている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		責任者に相談し適切な対応を行なっている。	迅速な対応を心がける。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月ろばのこだよりの発行を行なっている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		全職員に個人情報の取り扱いについて指導を行なっている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		毎年8月にセルコボ祭を行なっている。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルを作成し、定期的に見直しも行なっている。	研修だけでなく訓練もしっかり行なっていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月災害の内容を変え避難訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		入園時にどのような対応をしたらよいかを確認させていただき、全職員に周知をしている。保育室に対応の仕方を掲示している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		入園時にアレルギーの確認、対応の確認をしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットが起こった場合は全職員に周知し共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		月1回、虐待防止研修を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。